

シャコ



水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

37

大和茂之

シャコを食べたことのある人は多いと思うが、シャコの体をまじまじと眺めたことがあるだろうか。

甲殻類としての共通性

か。シャコには、エビでもカニでもない特徴が数多く見られる。

甲殻類の体は通常、頭部、胸部、腹部に分かれ

胸部にカマキリのかまのよつな足を持つトゲシャコ
(水槽番号304)

る。シャコの胸部の足は非常に特徴的である。前から2番目の足は大きくカマキリのかまのよつになつている。この部分がハンマー状になつている種類もいて、貝などをたたき割つて食べる。この足を含めた前5対の足

以上をまとめると、頭部に5対、胸部に8対、腹部に6対の足があることになる。この足の数は、エビやカニ、以前紹介したフナムシやヨコエビ類とも共通している。エビやカニの歩脚は5対、フナムシやヨコエビの歩脚

通性に基づいて、これらは軟甲類としてまとめられる。シャコが属する口脚類は、いろいろな原始的特徴を保持して、軟甲類の中で最も原始的なグループとして位置付けられている。
日本のシャコを初めて本格的に研究したのは、瀬戸臨海実験所の駒井卓初代所長である。40種ほどの日本産シャコを報告しただけでなく、内

は、口の周りを覆つようになつているため、シャコの仲間は口脚類と呼ばれる。その後ろ3対は細い歩脚になつている。頭部の足は、触角2対と口の周りに3対ある。腹部の足は、前5対は葉っぱ状の遊泳脚、最後の1対は棒状になつて尾部を構成する。

は7対なので、「あれ?」と思われる人もいるかもしれない。8対あるはずの胸部の足が減つているように見えるのは、足が変形して、口の周りを覆うようになつているからだ。カニの口の周りを解剖すると、板状に変形した足が見つかる。

このような足の数の共通性に基づいて、これらは軟甲類としてまとめられる。シャコが属する口脚類は、いろいろな原始的特徴を保持して、軟甲類の中で最も原始的なグループとして位置付けられている。
日本のシャコを初めて本格的に研究したのは、瀬戸臨海実験所の駒井卓初代所長である。40種ほどの日本産シャコを報告しただけでなく、内

(京都大学助教)